



平成29年 3月10日

北名古屋市議会議長
沢田 哲 様

会派名
代表者 公明党 印
若しくは
議員名 齊藤 裕美 印

視察・研修報告書

視察・研修のため出張いたしましたので、下記のとおり報告します。

記

参加議員名	齊藤 裕美	
日程	平成29年 2月13日	
月日	視察・研修先	視察・研修概要
2・13	一宮市立中央図書館	電子書籍について

行政視察

電子書籍について

日時：2017年02月13日（月）10:00～11:30

場所：一宮市立中央図書館 講座室

研修報告：齊藤 裕美

調査の成果

1. 一宮市の概要

平成17年4月1日、一宮市・尾西市・木曾川町が合併し、人口約37万人の新生「一宮市」が誕生した。現在、施行時特例市である。

繊維産業を基盤として栄えてきた。近年では地場産生地「尾州」のブランド力強化を進めると同時に、企業誘致の推進により産業の複合化を図っている。

市内には高速道路の4つのインターチェンジと一宮ジャンクションがある。東西の大動脈である東名・名神高速道路と、太平洋側と日本海側をつなぐ東海北陸自動車道の結節点として、重要な位置にある。

市北部から西部へと約18キロメートルにわたって接する木曾川がはぐくんだ豊かな自然や、これまで蓄積された歴史・文化を礎に、安心・元気・協働の基本理念のもと、「木曾の清流に映え、心ふれあう躍動都市 一宮」を将来像としたまちづくりを目指している。

2. 図書館の概要

一宮市には、図書館が6施設ある。今回、視察に訪れたのは、平成25年1月10日に開館した尾張一宮駅ビルの5～7階にある中央図書館です。

3.電子書籍について

図書館システムの更新（平成29年1月）に合わせて、図書館システムと連携させて電子書籍を導入した。

平成29年1月12日（木）午前9時から電子書籍の貸し出しを開始した。（1月11日まで休館）

一宮市内在住者で図書カードがあれば閲覧できる。

（市内カードは、15万7千人が登録している。）

デジタルデータで作成された電子書籍を、インターネットを通じていつでもどこでも検索、貸出、返却できる。貸出期間は、2週間で自動的に閲覧できなくなり返却される。（＝返却忘れがない）

書籍により文字の拡大や音声読み上げ機能などができ、子どもや高齢者、障がい者の利用促進につながると期待している。

大府市、豊川市について県下で3番目にシステムを導入した。

館内閲覧用タブレットは10台あり。施設内Wi-Fiあり。30分で切れる。館内のインターネット用パソコンでも閲覧可能だが、音が出せない設定になっている。

旅行ガイドブック『るるぶ』や話題の本（火花）は予約が重なり半年先まで埋まっている。絵本の閲覧も多い。しかし、絵本のキャラクターものは電子書籍になっていないので選べない。

《問題点》 電子書籍のコンテンツが少なく、最新刊がないことが挙げられる。インターネット上ですでに著作権の切れた書籍が自由に閲覧できる「青空文庫」があり、そこでみられるものは除いて契約している。

《契約》 平成28年度予算額。電子書籍代500万で1085点のタイトルと1503点のライセンスを獲得した。電子書籍構築費用は、図書館システム構築費用に含むため不明。TRC-DLの利用料は、図書館システム保守委託料に含む。平成29年度も電子書籍代500万を計上し、充実を図っていく予定である。

全体所感

閉架書庫の本の貸出返却もすべてオートメーション化していた。

最新設備が整い広々として明るい図書館であった。

今すぐ北名古屋市で導入することは費用面のみを見ても困難と思われる。

憩の場所としてみんなが集える図書館づくりを目指している現在の北名古屋市においては、電子書籍を導入すべき緊急度は低いと感じる。

- (しかし、着実に押し寄せる人口減少、少子高齢化社会を見つめ、北名古屋市民の皆様の文化教育にどのように寄与していくことが出来るのか。インターネットができる環境下にいればどこにいても閲覧でき、返却忘れの心配がなく、文字の拡大も容易にでき、音読機能も付いている電子書籍については、今後も調査研究を続けていく必要性を感じています。